

花水木

水と緑と歴史豊かな村君小だより

令和4年2月

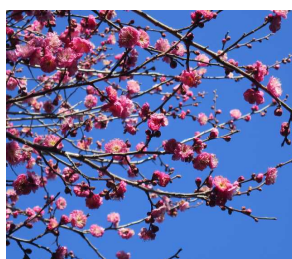
羽生市立村君小学校

第10号

羽生市堤107番地 TEL 048-565-0223

2月は逃げる 一日一日を大切に 校長 鳥海一寿

本校体育館北側にある紅梅の花が咲き始めました。寒い日は続きますが、花を見ていると春の足音が聞こえてくるようです。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。」と言われるように、3学期は足早に月日が過ぎてしまいます。一日一日を大切にして、学習や生活のまとめに取り組み、新しい学年に引き継げるようにしてまいります。



2月も、新型コロナウイルスの感染拡大は続くことが予想されます。学校では引き続き感染防止対策を徹底してまいります。詳しくは、1月28日に配布した「新型コロナウイルス感染防止対策について」を御覧ください。

しかし、どんなに感染予防や防止対策をしても、誰でも感染する可能性はあります。もし、身近に感染した方がいたら、感染者と家族の方が一日も早く回復することを願い、相手の立場に立って、思いやりの気持ちをもって接するようお願いいたします。

大きく育てて戻ってきてね サケの放流集会

1月27日に全校児童でサケの放流集会を行いました。この活動のねらいは、①サケの稚魚を放流して遡上するサケの数を増やす、②自然や生命を大切に育てる心、③利根川を利用した学習を通して地域を愛する心を育てることです。



1月13日に4・5・6年生は水資源機構利根導水総合事務所の方からサケの生態や利根川を遡上するサケの数など教えてもらいました。利根大堰を遡上したサケの数は、数年前の1000匹以上から、昨年は36匹と激減しているそうです。原因は不明ですが、温暖化の影響があるのではないかと話していました。

今回放流したサケは12月上旬に市内在住の有志の方から分けていただいたものです。貴重な卵のため、5年生の子供たちが学校で育ててきました。稚魚は、体長が3センチほどになり水槽の中で元気に泳いでいました。

当日は、学校から利根川の河川敷から放流する川岸まで歩いていきました。子供たちは、カップに入れた稚魚をもらい、利根川の水に足を踏み入れ、稚魚を川の水温に慣らしてから、そっと放流しました。ゆっくりと泳ぎ出す稚魚の様子をじっと見守っている子もいました。最後に「大きく育てて、また、利根川に戻ってきてね。」と全員で声かけして、サケの放流集会を終えました。



今回の活動に御協力いただいた、水資源機構利根導水総合事務所、利根川河川事務所川俣出張所、小川工業株式会社をはじめとする関係各社の皆様にご心より感謝申し上げます。 ※裏面の新聞各社の記事も御覧ください。

インフォメーション

1月13日(木) 少年消防クラブ防災体験学習

羽生消防署と村君地区消防団の第8分団の方による、村君地区少年消防クラブ防災体験学習を行いました。避難訓練実施後、水消火器を使用した消火訓練や煙の体験、消防車の見学をしました。貴重な体験をとおして、子供たちは火災予防や防災について学ぶことができました。指導していただいた消防署、消防団の皆様にご感謝申し上げます。



1月14日(金) 校内書き初め会

校内書き初め会を行いました。地域の尾上先生に御指導をいただきながら、2学期から練習してきました。この日は、今までで一番よい作品を仕上げようと、どの子も真剣に自分のめあてに向かって取り組みました。作品は廊下に掲示されていますが、重ねて貼ってきた書き初め作品に一人一人の上達の様子があらわれていました。



1月17日(月) ミニトマト農園見学

学校近くのミニトマト農園「風の子ファーム」に見学に行きました。ハウス栽培しているほうれん草とミニトマトについて、その特徴や栽培の仕方などを丁寧に説明していただきました。その後、ミニトマトの収穫体験までさせていただき、子供たちは1パックずつ家庭に持ち帰ることができました。3日間に渡り、全児童に貴重な機会を与えてくださった「風の子ファーム」の皆様にご感謝申し上げます。



1月18日(火) 第2回学校保健委員会

学校保健委員会として「わくわくどきどきミルク教室」を実施しました。講師として、日本乳業協会の方にお越しいただきました。子供たちは、実物大の牛の絵を見ながら牛の大きさを実感したり、酪農家の仕事や牛乳工場の様子を学んだりしていました。牛乳には多くの栄養があり、成長や健康に生きるために大切な飲み物であることを知ることができました。参加された保護者の皆様、大変ありがとうございました。



毎週木曜日の「おはよう運動」

厳しい寒さの中ですが、毎週木曜日に「おはよう運動」を実施し、心身ともに健康で、たくましい体づくりに励んでいます。今は短縄跳びが中心ですが、みんな白い息を吐きながら、最後まであきらめずに跳んでいます。寒さに負けない、新型コロナウイルス感染症等にも負けない体力をつけさせていきます。



2月行事予定		
1	火	朝会 一円玉募金
2	水	チャレンジタイム 入学説明会
3	木	おはよう運動
4	金	チャレンジタイム 委員会 学校運営協議会
5	土	
6	日	
7	月	お話会123年 読書タイム456年
8	火	なかよし遊び
9	水	チャレンジタイム
10	木	おはよう運動 登校指導 安全点検
11	金	建国記念の日
12	土	
13	日	
14	月	読み聞かせ456年 読書タイム123年
15	火	児童集会
16	水	チャレンジタイム スクールカウンセラー来校 臨床心理士巡回訪問
17	木	おはよう運動
18	金	チャレンジタイム クラブ(3年見学)
19	土	友・遊・プラザ
20	日	第3回資源回収
21	月	読書タイム
22	火	英語集会 ふれあいデー
23	水	天皇誕生日
24	木	おはよう運動
25	金	チャレンジタイム 通常日課 学年末学習参観・ 学級懇談会
26	土	
27	日	
28	月	読書タイム 通学班編制

「カムバックサーモン」

羽生市の市立村君小学校の全校児童54人が27日、学校近くを流れる利根川にサケの稚魚約200匹を放流した。児童らはそれぞれ3、4匹の稚魚が入ったコップに川の水を入れて水温を調節。「行っておいで」などと言いながら、川にそっと放つ

羽生の児童

稚魚200匹 放流

と、全員で水面に向かって「大きくなって戻ってきてね。カムバックーサーモン」と呼びかけた。同校は1991年度から、学校の水槽で卵から体長3〜5センチになるまで稚魚を育て、放流している。今年も市内の有志から卵が提供された。成長したサケが利根川に戻るまでには、4年前後かかるという。



サケの稚魚を放流する児童たち(27日、羽生市で)

大きく育てて帰れ

羽生村小 サケ稚魚、利根川に放流

羽生市堤の市立村君小学校(鳥海一寿校長、児童数54人)の全校児童が27日、学校の近くを流れる利根川にサケの稚魚約200匹を放流した。

同小では生命を慈しむ心の教育の一環で、1991年から毎年、サケの稚魚を放流している。校歌の歌詞にも「サケよ大きく育ったら帰れふるさと忘れないで」とある。

同校によると、昨年12月3日に市内の協力者からサケの受精卵約300粒を提供してもらい、ふ化をさせて5年生が中心になって学校の水槽で育ててきた。また、今年1月にも行田市内の水資源機構から受精

卵約100粒の提供を受けており、こちらは稚魚を3センチほどに成長させてから、2月中に放流する予定という。

5年生の折原紗羽(さわ)さん(11)は「水槽の水替

えと餌やりをして、稚魚は3〜4センチほどの大きさに育った。大きくなって(放流場所に)戻ってきてほしい」と話していた。

この日は風が時折強く吹いたが、児童たちは元気いっぱい。放流の後、利根川に向かって全校児童で「カムバック、サーモン」「大きくなって戻ってきてね」などと声を掛けていた。

(江利川義雄)



コップに入れたサケの稚魚を利根川に放流する村小の児童たち(27日午前、羽生市堤)